

令和7年度 学校自己評価システムシート（さいたま市立指扇小学校）		学校番号 058
学校教育目標	やり抜く子の育成 かしく やさしく たくましく あたたく	
目指す学校像	「教育は人なり」をモットーに、教育目標の「やり抜く子の育成」の実現のため、チーム指扇小が丸となり、学びの改革を推進する。①笑顔の輝く子 ②力を磨き合う教職員 ③考え、対話し、信頼し合う組織を柱とする Well-being な学校づくりを進め、笑顔の花咲く指扇コミュニティ・スクールを拡充する。	
重点目標	1 主体的・対話的で深い学びを実現するため、教育指導の充実を図る。 2 安心・安全を基盤に、中長期的展望の下、教育環境の整備を進める。 3 子どもを見守る教育の推進を図るため、学校、家庭、地域との連携を深める。 4 専門性や得意分野を活かして力を発揮するプロ集団として、教職員研修の充実を図る。	

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価
年 度 目 標					年 度 評 価		実施日令和8年1月28日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	(現状) ○全国や市の学習状況調査では、学習への関心・意欲・態度に関する質問に肯定的な児童の割合が、全国や市平均を概ね上回っている。 ○特別活動「指小スタンダード」の活用により、行事や委員会活動等で挨拶したり、学習でプレゼンをしたりすること等、意欲的に取り組む児童が多い。 (課題) ○全国や市の学習状況調査の分析結果で、課題解決に主体的に取り組む姿勢が低い状況が見られる。 ○学習に自信を持っていない児童が多いため、学習や経験を通して達成感や充実感を味わえるようにする。	○学びの自律化・探究化に向けた授業改善と、ICTの活用	①児童が目標をもって主体的、探究的に学ぶ授業を実施し、「学びの指標」によって自らの状況を分析する。 ②ICTを活用した授業を学期1回以上公開し、授業のねらいに沿ったICTの活用力を磨く。	①学校自己評価(児童)の「進んで問題を解いたり、考えをまとめたりしている」に肯定的な回答が昨年度を上まわったか。 ②学校自己評価(児童)のICT活用に係る項目において、肯定的な回答が昨年度を上回ったか。	①当該質問に係る平均得点は3.25ptと僅かに減少[昨年度比-0.04]。 ②質問「タブレットは学習の役に立っている」の平均得点は3.49pt[-0.09]。	B	ICTを児童が主体的に活用していると感じていないことに課題がある。 次年度は教師が使うだけでなく、児童同士の「対話的・協働的な学び」の場面における活用を推進していく。
		○ともに学ぶ学校「真の学力の向上」「非認知能力の向上」を実現する教育活動の展開	①SSSPの活用等により、個々の学習状況を適切に把握する。 ②全国や市の学習状況調査の結果を基にPDCAサイクルを意識した授業を実践し、授業改善を図る。	①学校自己評価(児童)の授業に係る項目の肯定的な回答が昨年度を上回ったか。 ②調査結果の分析を踏まえ、教職員が各自、授業改善の視点、手立てを設定することができたか。	①「授業では『わかった』、『できた』と感じている」の平均得点は3.44ptと僅かに減少[-0.01]。 ②学力向上ポートフォリオを活用し、各職員が自ら授業改善の手立てを試行錯誤しているところである。	B	児童が『わかった』『できた』と実感できることが必要である。次年度は、活動の振り返りを確実に行うことによって自らの成長に気付くことができるようにするとともに、「学びの指標」を活用して指導を見直ししていく。
2	(現状) ○学校自己評価(児童)結果 質問「友達の気持ちを考え、仲よくすごす」に肯定的な回答が3.66点(4点満点)、「運動会などの行事や集会活動を楽しみにしている」に肯定的な回答が3.50点(4点満点)である。前年度より上回った結果となり、学校が楽しみであることが伺われる。 (課題) ○児童生徒一人ひとりの理解と状況把握に基づいた個別最適な支援や、適切な相談対応を行うための組織的な体制を強化する。 ○課題を抱えた児童一人ひとりの状態に応じた多様な学びの在り方について、研究が必要である。	○個に応じたきめ細かな支援や相談等、校内体制の充実	①「心と生活のアンケート」、SSSPの活用により児童一人ひとりの状況を把握する。 ②「心のサポート手引き」を活用し、課題を抱えた児童への対応について共通理解を徹底する。 ③三部会(生徒指導・教育相談・特別支援教育)を始め、ケース会議等の実施によって、組織的に支援・相談を行う。	①学校自己評価(児童)の学校が楽しいかに係る項目の肯定的な回答が昨年度を上まわったか。 ②学校自己評価(保護者、教職員)の問題行動への対処に係る項目について、肯定的な回答が昨年度を上回ったか。	①当該質問に係る平均得点は3.32ptと微減[-0.04]。 ②当該質問に係る平均得点は保護者、教職員いずれも昨年度を上回っており、問題行動への迅速かつ組織的な対応が評価された。 保護者3.23pt[+0.03] 教職員3.65pt[+0.08]	B	問題行動への対応に比して日常的に学校が楽しいと感じる児童が増加していないことに課題がある。 次年度は、日頃の学級活動で児童同士の関わり合いを増やすとともに、リフレーミングなどを通して児童自身が生活を前向きに見直す姿勢を育てていく。
		○誰一人取り残されない学びの場の整備	①校内教育支援センターSolaの一むを中心とした多様な場の運用により、課題を抱えた児童に組織的な支援を実施する。 ②ICTの活用により、児童が自分のペースで学ぶ場と時間を研究・整備する。	①学校自己評価(保護者、教職員)の教育相談等に係る項目の肯定的な回答が3.3点(4点満点)以上となったか。 ②Sola一むを始めとする多様な学び方の選択肢をまとめた一覧を作成できたか。	①当該質問に係る平均得点は、保護者が3.39ptと目標値を上回った。 ②Sola一む運営について見直しを図り、全教職員が支援に参加する方向となっている。一覧は次年度作成予定。	A	次年度は教育相談について、教職員全体がきめ細かく対応できるようにするとともに、どの児童についてもその子に合った学び方を提案できるよう、研究を重ねていく。
3	(現状) ○コミュニティ・スクールにおいて、「郷土愛」「社会性」を育む取組が進められている。 ○SSNやボランティア活動が推進された影響で、地域と学校のつながりが見える、社会に開かれた学校づくりが進んだ。 (課題) ○学校運営協議会が主体となり、学校と地域がさらにつながる情報発信や協働的な取組を実施する。	○地域とともにある学校づくりを目指した、指扇ネットワークの構築	①学校運営協議会において、目指す子どもの姿を具体化する方策を協議する。 ②SSNやPTA、ボランティア活動において教職員と保護者、地域との双方向の情報共有を行う。	①学校運営協議会年3回の会議を要に、SSNに関連するネットワーク会議を実施できたか。 ②各ネットワークにおいて次年度につながる手立てが講じられたか。	①学校運営協議会、防犯ボランティア連絡会、民生委員・主任児童委員連絡協議会を予定しており実施している。 ②PTAは手紙配信の方法を大幅に見直し、次年度開始予定。	B	地域とのつながりについて、保護者と共に教職員の意識を高めることが課題である。次年度は、諸会議に管理職以外の主任を積極的に参加させていくとともに、日常的な情報共有の回数を増やす。
		○地域とのつながりを強くする方策や機会の創出	①ホームページ等で学校の情報を発信し、家庭、地域と情報を共有する。 ②家庭や地域とつながる行事等の機会を増やす。	①ホームページ等で、魅力的な内容を分かりやすく提供できたか。 ②次年度に向けて、家庭や地域とつながる行事等の機会が増えたか。	①ブログにて学校生活を定期的に配信した。 ②運動会を全面実施。次年度の授業参観の回数については検討を重ねている。	B	保護者が足を運ぶ機会を作ることが課題である。次年度は参観の機会を見直し、児童向け講演会等の機会に保護者参加を促すようにする。
4	(現状) ○学校自己評価(教職員)の事故防止に係る項目の肯定的な回答が、昨年度を上回った。 ○緊急時において、教職員一人ひとりが積極的に支援に携わろうとする雰囲気がある。 (課題) ○学校自己評価(保護者)の事故防止への配慮に係る項目の肯定的な回答が、昨年度より下回った。 ○リフレッシュ工事に伴う教育環境の変化に対応できる管理システムを構築し、危機管理意識を高める。	○安心・安全な学校の実現に向けた教育活動の土台の強化	①「危機管理マニュアル」に基づいた研修を行い、教職員の安心・安全に係る危機管理意識を向上させる。 ②日常の教室整備、定期的な安全点検により事故防止の意識を高める。	①安心・安全に係る管理を、安全点検日を中心に確実に実施できたか。 ②学校自己評価(保護者、教職員)の事故防止に係る項目の肯定的な回答が昨年度を上回ったか。	①マニュアル配付済、安全点検も実施した。 ②事故防止に係る平均得点は保護者、教職員ともに昨年度を上回った。 保護者3.13[+0.05] 教職員3.26[+0.10]	A	仮設校舎ゆえに危機管理意識は高まっていると感じている。次年度は理科、家庭科、体育の各々が、想定されるヒヤリハット事故についてマニュアルをもとにまとめていく。
		○リフレッシュ工事への柔軟な対応	①リフレッシュ工事に伴う変更に対応する。 ②リフレッシュ工事ならではの特別な教育活動を展開する。	①リフレッシュ工事に伴う変更について、事前に学校内外に周知し、適切な対応を行うことができたか。 ②リフレッシュ工事に伴う変更を活用して、教育活動の充実を図れたか。	①リフレッシュ工事の変更について、学校施設整備課と連絡を取り合いながら、HPや手紙で適切に周知した。 ②遊水池公園での運動会を、昨年度より大きな規模で実施することができた。	B	工事の変更については、今後も学校施設整備課と定期的に連絡を取りながら確認し、最新の情報を周知していく。 避難経路の見直しや運動会の実施など、行事の円滑な遂行を最優先とする。
5	(現状) ○市教委の3年間の委嘱である学校課題研究『Well-beingを実感する児童の育成～非認知能力の向上』 ○教職員一人ひとりが、自らの強みを生かした教育活動を展開している。 (課題) ○公開授業等を通して、全教員が非認知能力の向上を目指した授業改善を行う。 ○教員一人ひとりが自身の課題を理解し、更なる資質向上を図る研修に取り組む。	○子どもたちのWell-being～子どもたちがよりよい人生を歩むために～『指扇プロジェクト』の実施	①目指すべき非認知能力の向上について、教員間で周知を図る。 ②各教員が、授業を始めとする自らの教育活動の中で、非認知能力の向上に係る指導のポイントを考え、実践する。	①非認知能力の定義を明確にし、教育活動で育成すべき力を共有できたか。 ②各教員が、自ら非認知能力の向上を目指した教育活動を展開できたか。 ③市学習状況調査において、自尊感情の項目が前年度より向上しているか。	①研修推進委員会によって、3つの『身に付けたい力』が明確に整理された。 ②カリマネデザインマップで活動を検討中。 ③市学調は分析中。「心と生活のアンケート」はほぼ横ばいだった。(数値が下があれば向上) 自分が好き:1回目1.80→3回目1.81 良いところがある:1回目1.77→3回目1.75	B	「非認知能力の向上」をどのように表現するか課題である。次年度は、カリマネデザインマップに基づき各教員が授業実践を行い、他校で実践可能な活動を数多く見つけ出していくことが急がれる。 併せて、成長の見取りについても、有効な方法を模索していく。
		○自信をもって指導にあたるプロとしての教員集団の育成	①「さいたま市教員等資質向上指標(キャリアnavi)」を活用し、各教員が自身の課題に基づいた研修をマネジメントする。 ②校内研修の見直しと充実を図り、教員が求める資質向上の材料を提供する。	①全ての教員が、自身の成長のための研修(受講あるいは資料閲覧等)を行ったか。 ②各教員が「キャリア振り返りシート」において肯定的な自己評価を行っているか。	①達成度評価面談では、全教員が目的をもち、対面、書籍、動画視聴等の方法によって自己研修を行っていることが分かった。 ②キャリア振り返りシートは、全教員が事前面談と比べて肯定的な評価となっている。	A	次年度は、各教員が本年度の面談の中で定めた目標に向けて本格的に動き出す。前任者との引継ぎの仕組みを整えて、余裕ある業務遂行をサポートしていく。